



第10回全国中学校(教科)柔道指導者研修会

第10回全国中学校(教科)柔道指導者研修会
(主催＝日本武道館、全日本柔道連盟、後援＝スポーツ庁)が10月25日～27日の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで、講師15名、記録員2名、参加者56名が集まって実施された。

本研修会は、平成24年度から完全実施された中学校武道必修化の充実に向け、日本全国で柔道を指導する中学・高校・大学・実業団等の指導者を対象に伝達講習のできる中核的指導者を養成するとともに、各都道府県において柔道を専門としない中学校保健体育科教員の授業力向上に資する目的で行われた。

■1日目(10月25日)

千葉県内は、記録的な大雨の影響により、朝から公共交通機関が乱れ、開始時に到着できなかった受講者が多数いたため、開始時間を遅らせ、到着した16名の受講者を対象に15時より研修はスタート。軽いウォーミングアップの後、柔道を専門とする人としらない人に分かれて研修を行った。柔道を専門としない人のグループは鮫島康太講師が担当した。“横受身”について、「最初は両膝をついた状態から、続いて^{そんきよ}蹲踞、そして、中腰の姿勢から、最後に立った状態からと段階的に練習して習得できるようにする」と自ら示範しながら説明した。続いて、“ひざ車”、“体落とし”から受身に繋げる練習を行った。「いきなり立った状態からというのは難しいので、まずは膝をついた状態から行い、段階を経て立った状態からできるようにもっていく」と説明した。

■2日目(10月26日)

当日、遅れて到着した受講者を含め、36名で早朝6時30分より開講式を行った。はじめに田中裕之全日本柔道連盟参事・普及振興MIND委員会指導者養成部会委員が挨拶に立ち、「本研修会は全日本柔道連盟と日本武道館による共催事業です。全日本柔道連盟は競技団体であり、競技力向上を目的としておりますが、それと同時に、柔道を通じての人づくりを行っており、その一つが本研修会です。柔道の持つ価値の高さを心に留め、柔道技能習得を通じての体力向上と意識の涵養を目指し、研修に臨んでいただきたい」と述べた。

続いて、中島昭博日本武道館振興課長が挨拶に立ち、「本研修会は国庫補助対象・スポーツ庁後援事業であり、全日本柔道連盟と日本武道館で共催し、10回目を迎えます。日本を代表する講師の先生方より柔道の素晴らしさを学ぶとともに、更なる指導力の向上を図っていただきたいと思えます。皆様にとって本研修会が充実したものとなるよう期待しています」と述べた。

午前中の研修では、始めに田中裕之講師による講義『教育に生かす武道の心』が行われた。新学習指導要領について、「将来、今ある仕事の49%は機械や人工知能で代替可能となる。では、AIとどこで勝負するか。それは“協働”と“創造”。つまり、自分で考え、正しい方向に進む力が必要となる。これは室町時代の頃から言われている“守・破・離”と一致している。柔道の創始者である嘉納治五郎師範は、“精力善用・自他共栄”

と唱えたが、教育の基本は、武道の教えに通じる。自分の持つ能力を活かし、周りの人と互いに高め合うことを学ぶことが大切であり、そのような学習をしていかなければならない」と説明した。また、柔道を学ぶ目的について「相手が痛い思いをして投げられてくれるから技を覚えられる。自分のことだけを考えて投げ捨てたら、相手が怪我をしてしまう。柔道を通じ、自然に相手を思いやり、人と人の良き関わり方を学ぶ。それが精力善用・自他共栄につながる」と述べた。最後に真の教育について「教育とは学校で習ったことを忘れた後に自分の中に残るものである。また、その力を社会が直面する諸問題の解決に役立てるべく、自ら考え行動できる人間を作ることであり」とアインシュタインの言葉を引用して説明した。



田中講師による講義の様子

続いて、向井幹博講師による『基礎知識・導入・礼法』の講習が行われた。はじめに講道館制作の映像を視聴し、柔道の特性について説明した。その後、大道場へ移動し、“立ち方”、“座り方”、“座礼”、“立礼”の指導を行った。

続いて、高橋健司講師による『基本動作』の講習が行われ、まず、中学校保健体育の柔道授業で指導する内容、安全面の留意点、効果的に活動するための留意点等について説明した。「保健体育で学んだことを日常生活で活かせることが大切」と述べた。その後の実技では国際武道大学柔道部の協力を得て、姿勢（自然体・自護体）、組み方、進退動作、崩し、体さばきを行った。

休憩後、磯村元信講師が講道館発行の『安全で楽しい授業づくり』について、要点を解説した。

続いて、遊佐英徳講師による『固め技』が行われた。まず、抑え込みの条件を提示し、“袈裟固め”、“横四方固め”、“上四方固め”を行った。その後、引き続き興儀幸朝講師による『固め技の

自由練習』が行われた。二人組となり、色々なパターンを設定し、押さえ方と逃れ方を行った。



昼食後、鮫島講師による『受身』、『投げ技』が行われた。「柔道の楽しさを体験するため、得意技の習得や簡易な攻防を繰り返し行うことが重要」と説明した。受身については、「腕全体で畳を強くたたく。また、頭を畳に打たないように、しっかり顎をひくこと」と注意事項を強調した。休憩後は引き続き、米田輝彦講師による“体落とし”と“大腰”、森英也講師による“大外刈り”、“小内刈り”、“大内刈り”が行われた。

続いて、坂井武彦講師による『技の連絡、技の変化』についての講習が行われた。二人組となり、技をどのように連絡させていくかをそれぞれが検討した。「自分たちで考えて技を繋ぎ合わせ、技が決まった時の達成感をぜひ子どもたちに味わわせていただけてほしい」と述べた。

最後に、福井学講師による『投げ技の自由練習』の講習で、お互いに技をかけ合う簡易な攻防を行い、二日目は終了した。

■ 3日目（10月27日）

まず、熊野真司講師による講義『新学習指導要領と柔道』が行われ、「子どもたちの見方・考え方を働かせる学習過程を工夫して授業を展開することが重要」と説明した。また、柔道の授業作りのポイントとして、①教える技を厳選する、②グループワーク等で生徒に工夫させる、③攻防の場面を多くすることの3点を挙げた。そして、最後に木村昌彦講師が総括として講義をし、様々なアクティブラーニングを考えることが重要とした。

閉講式では、田中講師が講評を行い、「今回大変な状況でもご参加いただいた。試練の数が多いほど得るものも多い。この3日間の経験を糧に、それぞれの学校でご活躍され、今後とも頑張ってください」と述べ、全日程が終了した。